

学部生・院生も集まれ！

英語による講演です



東京理科大学

TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE

3rd TUS Management Strategy Research Seminar

—クマと共に生きる —DXが切り拓くイタリアの共存戦略—

Living with Bears: How Digital Transformation Drives Human–Wildlife Coexistence in Italy

2026年6月17日 18:10-19:10 (Registration starts at 17:40)

東京理科大学 富士見校舎 4階 F401教室

対象：学部生、大学院生、教員、社会人の方（一般の方もウェルカム）

参加費：無料

アクセス：九段下駅1番出口徒歩8分、飯田橋駅から徒歩10分

靖国神社近く（飯田橋駅前の建物ではありません）

〒102-0071 東京都千代田区富士見 1丁目 1 1-2 富士見校舎

問合せ：大江秋津（oeakitsu@rs.tus.ac.jp）

参加登録：当日13:00まで：<https://forms.office.com/r/R78FFZY6vf>



概要 日本では近年、人とクマの遭遇増加が深刻化し、その多くは「リスクをいかに管理するか」という問題として議論されています。では、人と野生動物は対立する存在でしかないのでしょうか。イタリア中部アペニンでは、この問いに対して異なるアプローチが取られています。わずか50～60頭しか存在しないマルシカヒグマ（*Ursus arctos marsicanus*）を守りながら、地域社会と共存することが目指されています。本講演では、イタリアの国立公園であるParco Nazionale d'Abruzzo, Lazio e Molise（PNALM）の事例を取り上げます。複数の州にまたがり、農村や集落と野生動物が同じ空間を共有するこの地域では、GPSやIoT、遺伝子データを統合した管理と、LIFE Bear-Smart Corridorsによる地域連携が進められています。そこでは、被害を減らすだけでなく、クマの存在を地域の価値へと転換する取り組みが展開されています。本講演は、リスク管理を超え、「共存をいかに設計するか」という新たな視点を提示します。



Federica Ceci氏は、University G. d'Annunzioの組織・イノベーション分野の教授です。London Business SchoolやLinköping Universityなどで研究経験を有しています。英国サセックス大学のイノベーション研究・科学技術政策分野で世界的に評価の高い研究拠点であるSPRUにおいて、研究の独創性と国際的な将来性が評価され、EUのマリー・キュリー・フェローシップに採択され研究に従事されました。研究は、デジタルトランスフォーメーションとデータ活用、起業・イノベーションに焦点を当て、スマートシティや中小企業、産業クラスター、航空宇宙、自然保護など幅広い分野で実証研究を展開しています。Research Policy、Technovationといったトップレベルの国際学術誌に論文を発表し、Edward Elgar、Routledge、Springerといった世界的出版社から著書を刊行しています。また、EUの大規模研究プロジェクトに研究代表者・主要メンバーとして参画し、学術と実務の橋渡しを行っています。